

熱中症対策の取り組みについて

工事名 令和6・7年度
高田管内道路CCTV設備更新工事
工事場所 新潟県上越市柿崎区馬正面地先から
新潟県糸魚川市市振地先 全13地点
会社名 本間電機工業株式会社
発表者 梨本 正樹

1 はじめに

今年度の夏は春先から猛暑になるとの予報が出ていた。本格施工が6月～8月になることから、これまで以上の熱中症防止対策が必要と考え、計画を行なった。

2 概要

暑さ指数は数値的に算出できるが、道路面の輻射熱による中での作業、高所作業車を使用した高所作業等、作業内容によっても変化し、個人の身体的な対応力によってもリスクは変化すると思われる。空調服の使用や冷たい飲料・塩分の用意、タープ等による日影の確保、休憩用車両の導入等、従来の熱中症対策も行なうとともに作業員全員に個々の熱中症リスクを認知してもらい、早めの対策に繋げようと考えた。



従来からの熱中症防止対策

3 方法

腕時計型の熱中症対策バンドを導入し、関係者全員に装着してもらった。外気温度と皮膚温度を測定し、身体の深部温度を算出することにより個々の熱中症リスクをアラームにて通知、アラームの鳴った作業員、交通誘導員には休憩をとってもらいクールダウンを促進した。

休憩時間はWBGT 基準値を超えた場合 30 分に 1 回 15 分以上、基準値を超えた数値によって休憩時間を延長していたが、本工事では熱中症対策バンドのアラームも判断基準とし、アラームが止まない(体温が下がらない)作業員は休憩をとることとして、十分なクールダウンが取れたと判断できてから作業に復帰した。

また、作業員、交通誘導員は交代要員を含めた余裕を持った人数を確保し、交代で休憩をとることで作業内容によって休憩が取れない状況を回避した。



4 結果

従来は本人の告知や顔色・行動の変化等で確認するしかなく、少しの体調変化位では我慢していた方も少なからずいたと思われる。今回全員に対策バンドを装着してもらうことにより、個人によって変化する身体的リスクにも対応可能となり、早めの休憩・対策をとることが出来た。

5 まとめ

近年の気温上昇は止まるところを知らない状況にあり、今年度も当たり前のように猛暑日が何日もあった。我々建設業にとっても夏場の熱中症防止対策は最重要課題になっているので、今まで以上に様々な対策を講じ、現場から熱中症を出さないよう努めていきたい。